

1 本校の「志教育」の目標

『人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、将来の社会人としての生き方を主体的に求める姿勢を育む』

2 定時制課程における重点指導事項

社会での役割を「はたす」の項目の重点指導事項

『在学中から地域における就業を積極的に促し、社会の一員としての自覚を持たせる』

3 2に基づく令和3年度の実践事例

「学業と仕事の両立を促すための方策について」

(1) 進路講話

- ・日時：令和3年7月16日（金）
- ・対象：1～4学年
- ・講師：登米市内の不動産業経営者（本校定時制ETA会員） *ETA＝雇用主と教師の会
- ・内容：「社会人講話」
- ・成果：これまでいくつかの災害を経験し、多くのものを失うたびに新しい事業を興して立ち上がってきた経緯をお話いただいた。挫折を経験しても立ち直る姿勢を持ち続けることの重要性を話していただき、生徒にとって印象に残った言葉が多く、積極的に生きていくことへの意識が高められたようである。

(2) 「進路通信」の紙面上で生徒や卒業者が働いている姿を紹介し共有

- ・日時：令和3年度に5回発行
- ・対象：1～4学年
- ・内容：生徒や卒業者の就業先・進学先に教員が訪問し、仕事ぶりや近況などについて聞き取りした内容を紹介する。
- ・成果：自分が働いている姿を写真入りで紹介されることで、生徒は自分が評価されているのを感じているようである。また、他の生徒にとっては友人の働く姿や卒業生の様子を知る良い機会となっている。

(3) 定時制職員による就業先への訪問

- ・日時：令和3年6月～随時
- ・対象：生徒が働いている事業所
- ・内容：生徒が働いている事業所を担任が訪問して、日頃の感謝を伝え、生徒が学業との両立ができるように協力を依頼する。
- ・成果：取り組みはじめて6年目であり、徐々に事業所と学校の情報共有の機会となっている。教員側にとってはふだんと違う生徒の様子を実際に見ることや、雇用主からお話を聞くことで生徒理解に役立っている。

4 成果と今後の課題

卒業生6名のうち、1名が在学中の仕事を継続することになった。在学中同じ事業所で4年間勤務したことで本人は信頼を得ていることを実感でき、また今後さらに成長していく励みになったようである。

令和3年度は、働きながら学校に通い、仕事と学校の両立に向け努力する生徒が年間を通して50%～60%であった。今後とも「働きながら学ぶ定時制」を前提に、日中のアルバイトの後に学校に通う生徒達を支援し、就業に一步踏み出せない生徒には働きかけを継続したい。